

植物 92

秋の里山の植物

植物担当 金本 直子

暑さがやわらぎ、秋の気配が感じられるようになると、里山ではさまざまな植物が花を咲かせます。今回はその中から、思わず見過ごしてしまいそうな、小さくかわいらしい花や実をつける植物を中心に紹介します。国内南限種や希少な植物にも出会える鹿児島の里山へ、秋の花を探しに出かけてみませんか。

◆シュウブンソウ(キク科):国内南限種



秋分の頃に花を咲かせることから「秋分草」と名付けられました。枝を横に広げ、その葉のわきに、目立たない小さな白い花を咲かせます。(撮影地:南さつま市金峰町)

◆ミズヒキ(タデ科)



秋になると細長い花序に小さな花を咲かせます。花の上半分は赤く、下半分が白いことから、紅白の飾り紐の「水引」に見立てて名付けられました。(撮影地:南さつま市金峰町)

◆キンミズヒキ(バラ科)



細長い花序に黄色い花を咲かせる姿を、金色の水引に見立てて名付けられました。ミズヒキと名前は似ていますが、異なる仲間の植物です。かぎ状のトゲがある果実は、人の衣服や動物の毛にくっついて運ばれる「ひっつき虫」の一つです。(撮影地:薩摩川内市入来町)

◆ヌスビトハギ(マメ科)



果実の形が、盗人が忍び歩いた足跡に似ていることが名前の由来とされています。果実には細かなかぎ状の毛があり、動物の毛や衣服にくっついて運ばれます。(撮影地:薩摩川内市入来町)

◆ノダケ(セリ科):国内南限種



紫色の茎の先に、紫色の小さな花を多数咲かせます。セリ科には白い花を咲かせる種類が多いなか、ノダケの紫色の花はひときわ特徴的で目立ちます。(撮影地:南さつま市金峰町)

◆オミナエシ(スイカズラ科):準絶滅危惧(鹿児島県)、国内南限種



秋の七草の1つです。黄色い小さな花をまとめて咲かせ美しい花として古くから親しまれてきた植物です。(撮影地:薩摩川内市入来町)

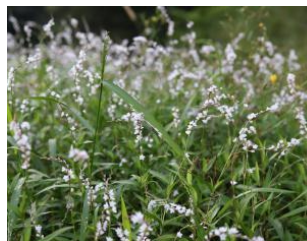
◆スズサイコ(キョウチクトウ科):絶滅危惧Ⅱ類(鹿児島県)、国内南限種



夕方になると星形の小さな花を開き、翌日の午前中には閉じるため、花に出会えることは稀です。蕾が鈴のように見えることが名前の由来です。

(撮影地:薩摩川内市入来町)

◆サクラタデ(タデ科):準絶滅危惧(鹿児島県)、国内南限種



淡い紅色の小さな花を穂状に咲かせます。花がサクラを思わせることから名付けられました。休耕田などでは、一面に広がる花畑が見られます。(撮影地:薩摩川内市入来町)

◆ミズタマソウ(アカバナ科):国内南限種



白い小さな花を咲かせます。球状の果実に毛が密生し、露にぬれると水滴がついて水玉のように見えることが、名前の由来です。(撮影地:南さつま市金峰町)